

合葬式墓地施設整備 基本計画書



令和 4 年 3 月
北茨城市環境産業部生活環境課

－ 目 次 －

1	合葬式墓地について	1
2	基本方針の設定	2
3	施設整備計画	3
4	施設計画案	7
5	アンケート集計結果	12

1. 合葬式墓地について

■墓地行政の背景

近年、核家族化や少子化等により承継の問題や無縁墓の増加など、お墓を取り巻く環境が変化している。その対応策として、承継者を必要としない永代供養墓のひとつである「合葬式墓地」が自治体などにより整備され始めている。

■市営霊園の課題

泉沢霊園においても後継ぎがないなどの理由でお墓の承継者が容易に決まらない場合があり、無縁墓化の懸念が生じている。

また、葬送の個人化も進んでおり、子供がいてもお墓を承継しなかったり、高齢者も子孫に負担をかけたくないと考える方が増えてきている。

■合葬式墓地とは

合葬式墓地とは、一般的に、参拝所、納骨室の各機能を有する設備を持ち、多くの遺骨を永代的に収納できる一つの大きなお墓として設置されているものを指す。

自治体が管理する合葬式墓地においては、自治体が遺骨を永代管理するため、承継者を必要とせず、単身者や子供のいない家族などが、自らの遺骨の保管場所を生前に準備することができる。

■北茨城市墓地に関するアンケート結果について

本アンケートは泉沢霊園使用者500名、市民3,000名(無作為に抽出した男女30歳から85歳まで)計3,500名に対して行い、1,129名の回答が得られた。回答率は約32%であり、統計学的にもこのアンケートは高い信頼性を得られているといえる。

今後のお墓のありかたとして合葬式墓地が「適している」又は「どちらかといえば適している」とする回答が全体の約4分の3程度あり、合葬式墓地の利用希望者については、全体の約3分の1以上の方が「ぜひ利用したい」、「どちらかといえば利用したい」、「整備すれば検討する」といった前向きな回答であった。特に、現在お墓を所有していない方においては、約61%の方が前向きな回答をする結果となった。

■合葬式墓地の必要性

アンケートの結果を踏まえ、お墓所有者においても維持管理や清掃管理、承継について不安を感じている方が6割以上いることと、所有していない方においても合葬式墓地を利用したいという声が多数あったことから、承継者を必要としない永代供養墓の一つとして、市として永代管理を行う合葬式墓地の需要が高まっていることが確認できた。

よって、当市霊園の課題解決のための手法の一つとして合葬式墓地の整備が必要であると考えられる。

2. 基本方針の設定

■基本方針

現状及びアンケート調査により得られた結果をもとに、将来の墓地需要に対応した墓地の供給ができるよう基本方針の立案を行う。

(1) 豊かな自然環境並びに周辺景観との調和

計画地は北茨城市関本町関本中にある泉沢霊園内とする。泉沢霊園は緑に囲まれた静かな場所であるため、周りの環境と調和した施設とするとともに、環境保全に十分配慮した施設づくりを行うものとする。

(2) 効率的な土地活用

泉沢霊園敷地の大部分は整備が終了しているため、合葬式墓地を建設するための場所が限られている。よって、現状可能な限りの土地活用を行い、墓参者動線を確保しつつ、周囲のレイアウトを活かし、景観に配慮した施設づくりを行うものとする。

(3) 新規需要への対応

近年、核家族化や少子化、高齢化が進み、家族形態や家族に対する意識が変化している。また、未婚化や晩婚化、結婚した夫婦が持つ子供の数も減少傾向にあり、ライフスタイルも多様化している傾向にある。

加えて、承継者がいない、あるいは負担をかけたくないといった承継者に対し何かしらの不安を持つ人も増えおり、この傾向は今後更に増加することが予想できる。

上記状況変化に伴い、同時に墓地に対する意識も変化しているため、墓地のありかたも多様化の時代に寄り添っていかなければならない。

(4) 誰もが利用しやすい施設づくり

合葬式墓地を利用する参拝者が穏やかに過ごせるようなバリアフリー及びユニバーサルデザインを活用し、若年者から高齢者まで誰もが利用しやすい施設づくりを行うものとする。

(5) コストへの配慮

慰霊の施設であるため、デザイン及び構造については華美にならないようなシンプルなものとし、建設並びに維持管理費用に配慮した施設づくりを行うものとする。

(6) 施設規模について

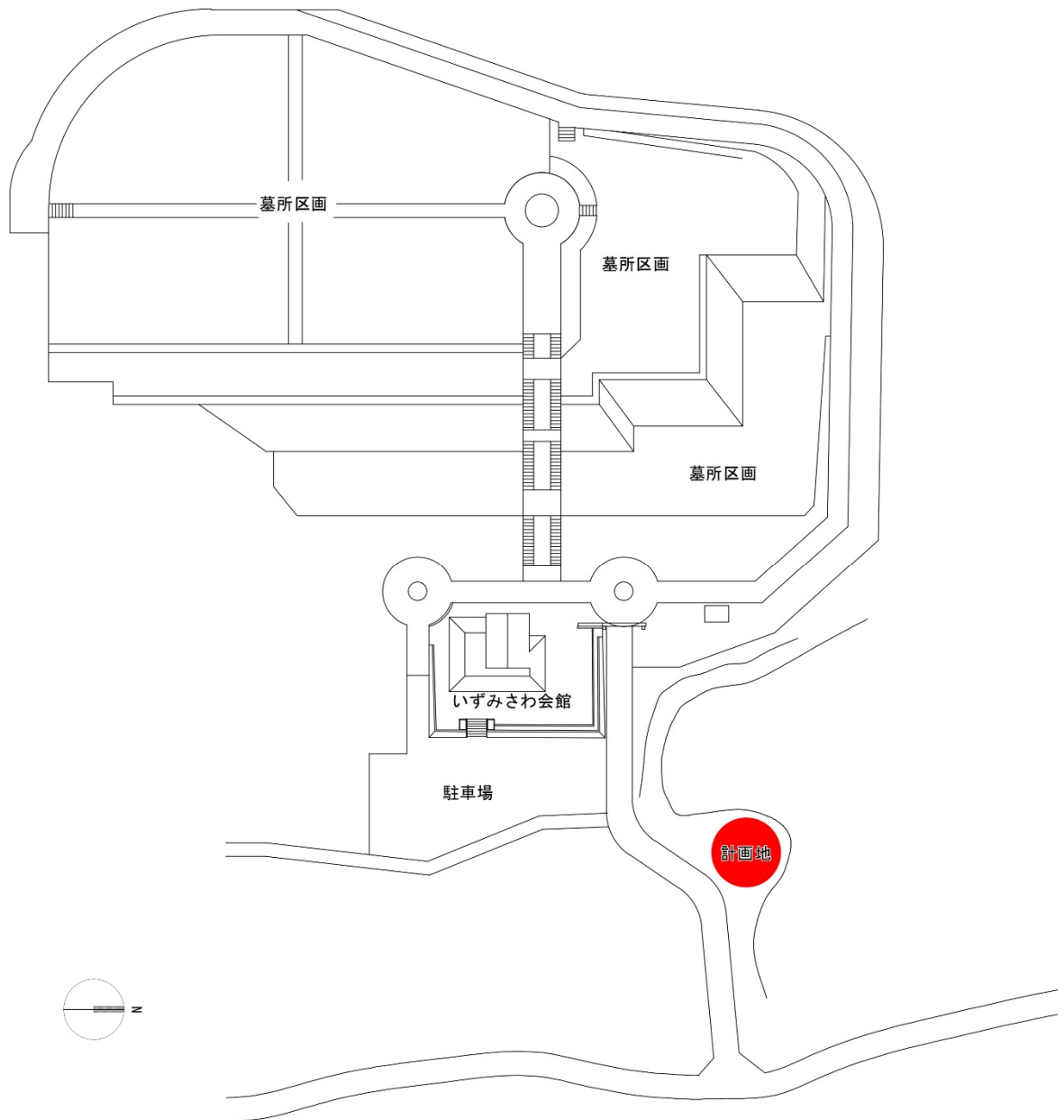
「(2) 効率的な土地活用」で述べたとおり、有効活用できる土地が限られているため、可能な限り多くの遺骨を埋葬できるような施設とする。

3. 施設整備計画

■施設コンセプト

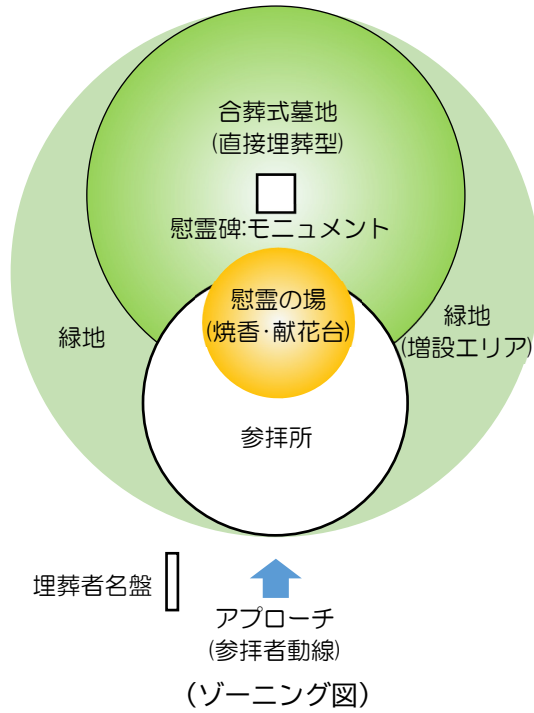
東に太平洋を望む緑豊かな環境の中で、静かに故人を偲ぶ慰霊の場としての合葬式墓地を計画する。

泉沢霊園のアプローチ道路に面し、合葬された方々の親族のみならず、ゆかりのある方々の参拝も可能な施設として、泉沢霊園の景観に調和した施設として整備する。



計画地位置図

■平面計画（ゾーニング図）



計画概要

- ・合葬式墓地：直接埋葬型（芝生仕上・メンテナンス歩道部御影石）
周囲コンクリート擁壁（御影石仕上）
- ・慰霊碑：モニュメント（燈明内装）
- ・焼香・献花台：コンクリート架台（御影石仕上）
- ・参拝所：休憩用ベンチ設置
- ・緑地：将来増設スペース確保
- ・アプローチ：インターロッキング舗装
- ・埋葬者名盤：自立型

■施設計画

(1) 施設配置計画について

- ・現況の地形を生かし、合葬式墓地を正面に据えて参拝エリアの中に焼香台、献花台を設ける。
- ・参拝エリア上部は屋根付とし、参拝者の利便性を図ることとする。
- ・合葬式墓地については屋外とし、なだらかな傾斜のある同心円上の区画の中に埋葬することとする。
- ・合葬式墓地は芝生で覆い、周囲の緑影との調和の中で静かなたたずまいを演出する。東面の緑地エリアは将来増設スペースとする。

(2) 施設全体計画について

- ・既存の休憩エリアを利用し、出来るだけ現況の地形を生かした計画とする。
- ・泉沢霊園のアプローチ道路に面した敷地であることより、霊園のシンボルゾーンとしての役割を担うことを考慮し、シンプルなデザインとし、他の付帯施設との調和を図る。
- ・埋葬は直接埋葬とし、「納骨室」「合葬室」は設けず、施設管理については可能な限りメンテナンスの負荷の少ない計画とする。
- ・自然採光・通風を取り入れ、親しみやすく、ランニングコストの低減を図った施設とする。
- ・参拝所は合葬式墓地に向かって設置し、合葬式墓地は芝生仕上として、南側に傾斜をつけた円形とする。
- ・雨水排水については、合葬式墓地下部に砕石排水層を設けた上で、透水配管を設置し雨水による墓地の流出を防ぐ。
- ・合葬式墓地中心部にモニュメントを設置し、慰霊のシンボルゾーンとする。モニュメント下部はLED照明により、燈明の意味を込めたデザインとする。

(3) 構造計画について

- ・泉沢霊園アプローチ道路に面した計画地であることより、シンプルでシンボリックなデザインとする。
- ・隣接する河川の擁壁などに影響を与えない基礎形式を検討する。
- ・建物は鉄筋コンクリート造壁式構造を基本とし、屋根部分を鉄骨構造として荷重の低減を図る。

(4) 設備計画について

- ・合葬式墓地及び建物周辺の雨水対策として、透水管を設置し雨水処理を行う。
- ・照明器具はLED照明とし、屋内及びアプローチ外灯を設置する。
- ・モニュメントに燈明をデザインしたLED照明を設置する。
- ・換気設備については、開口部より自然換気とする。
- ・屋外に手洗場（既存配管利用）を設ける。

(5) 仕上材について

- ・外壁はコンクリート打放し仕上の上、撥水剤仕上とする。
- ・合葬式墓地コンクリート立上り部分は御影石貼とし、おごそかな空間とし、外部空間との境界を明確にする。
- ・屋根材はアルミパネル又は複層ガラス屋根とし、自然光を取り込んだ計画とする。
- ・床仕上げはタイル又は御影石仕上とし、耐久性のある仕上材とする。

■施設計画案

「施設計画」に基づき、参拝所についてA案「屋内型」、B案「半屋内型」、C案「屋外型」の3案について計画した。

A案：参拝所を屋内とし、ベンチなどの休憩エリアを設ける屋根付とし、全天候型の参拝が可能な計画とする。

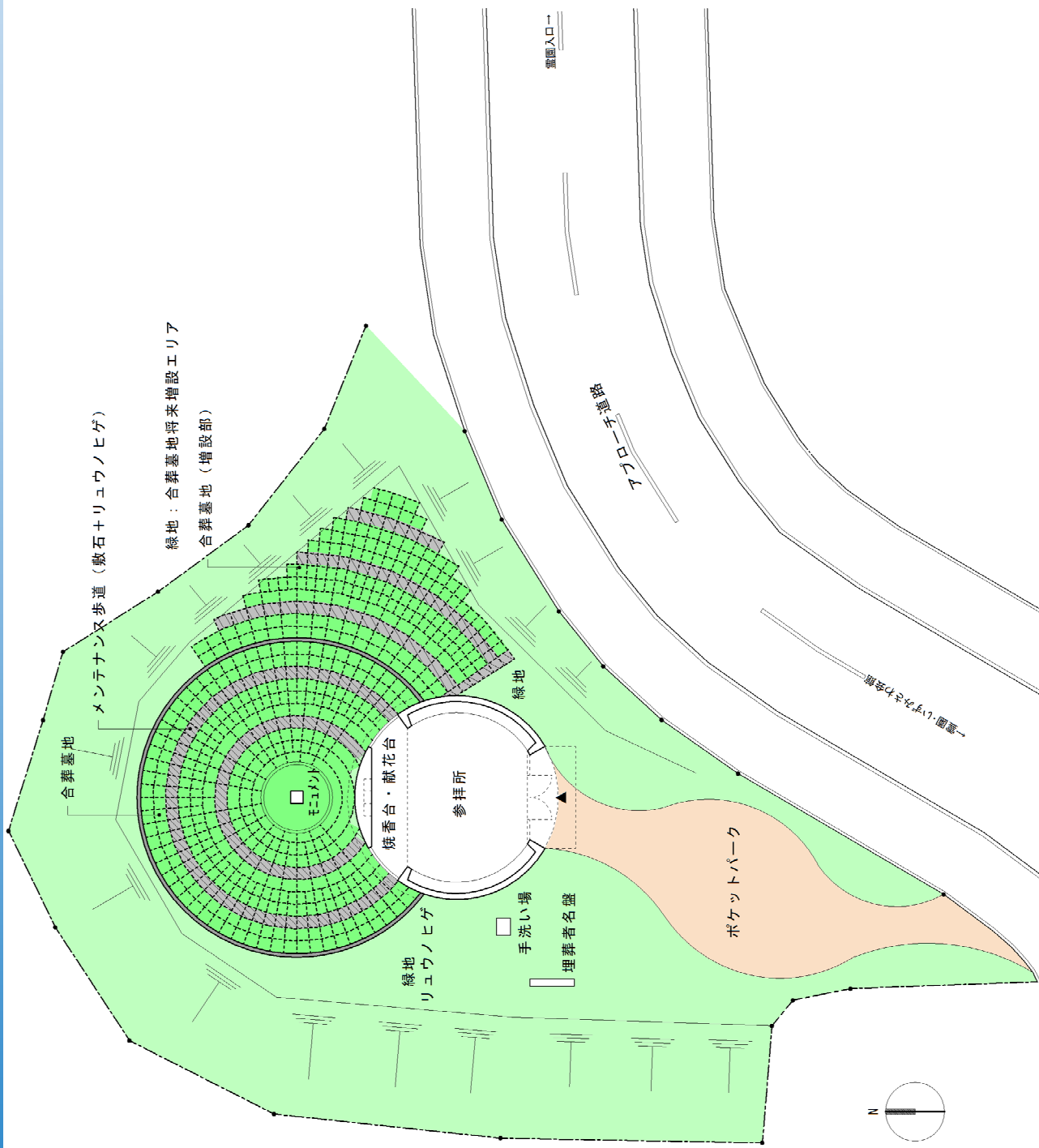
B案：参拝所を屋根付とするが、外壁部分はルーバータイプとし、内部と外部の境界をゆるやかにし、モニュメンタルな参拝ゾーンを計画する。

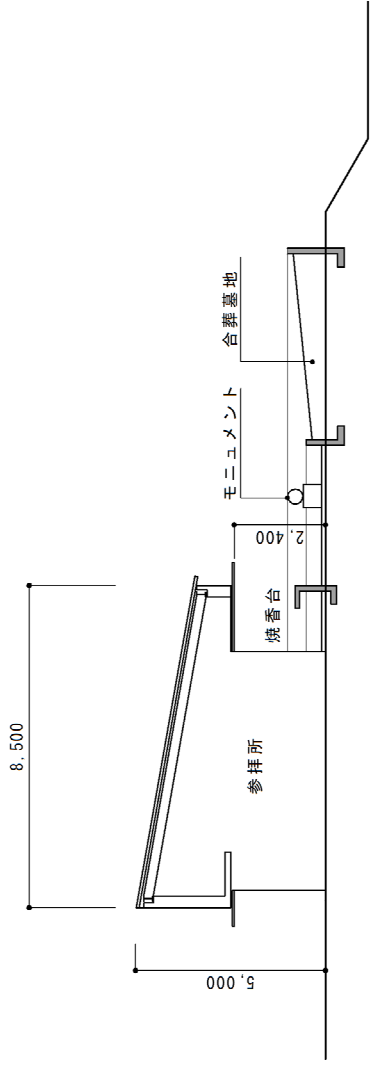
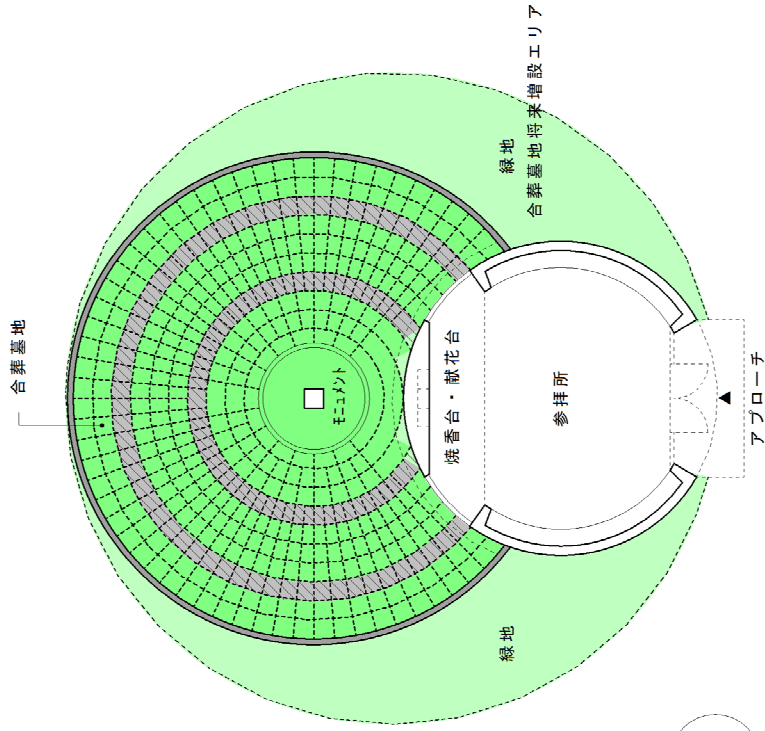
C案：参拝エリアのみを屋根付とし、外壁は設けず開放型の施設とする。

屋根部分はガラスとし、自然と一体感のある修景を意識したデザインを計画する。

合葬式墓地（各案共通）

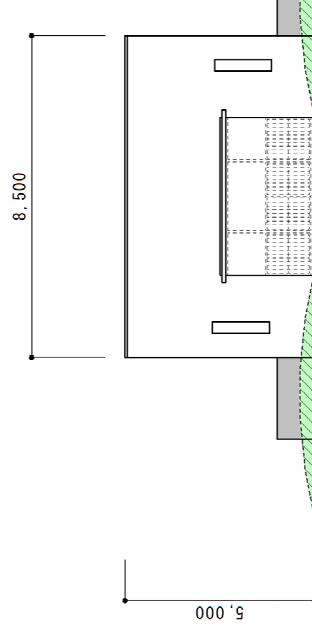
- ・直接埋設型とし、本設及び将来増設を計画する。
- ・上部仕上は芝生とし、メンテナンス歩道部は敷石+リュウノヒゲなどで構成する。
- ・中央部には燈明（LED）を施したモニュメントを設置する計画とする。



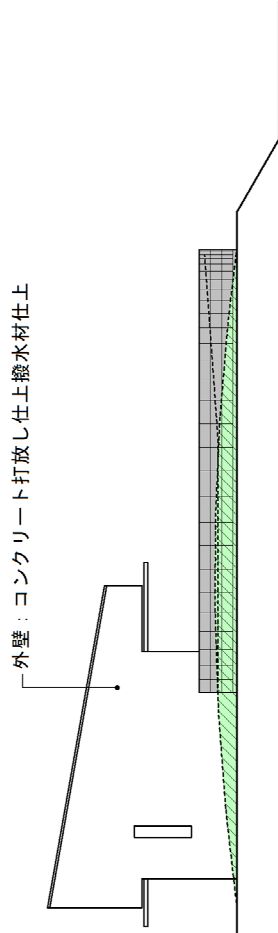


断面図 1:200

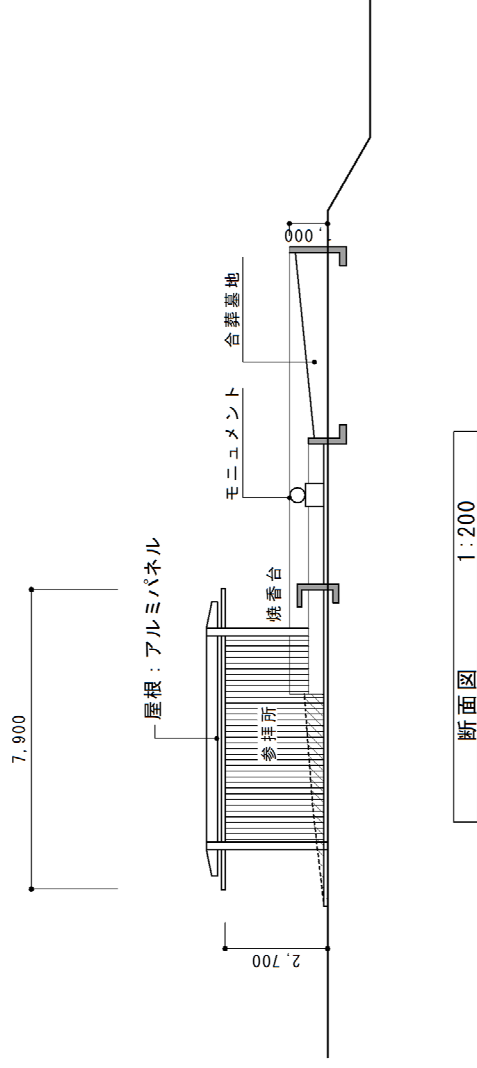
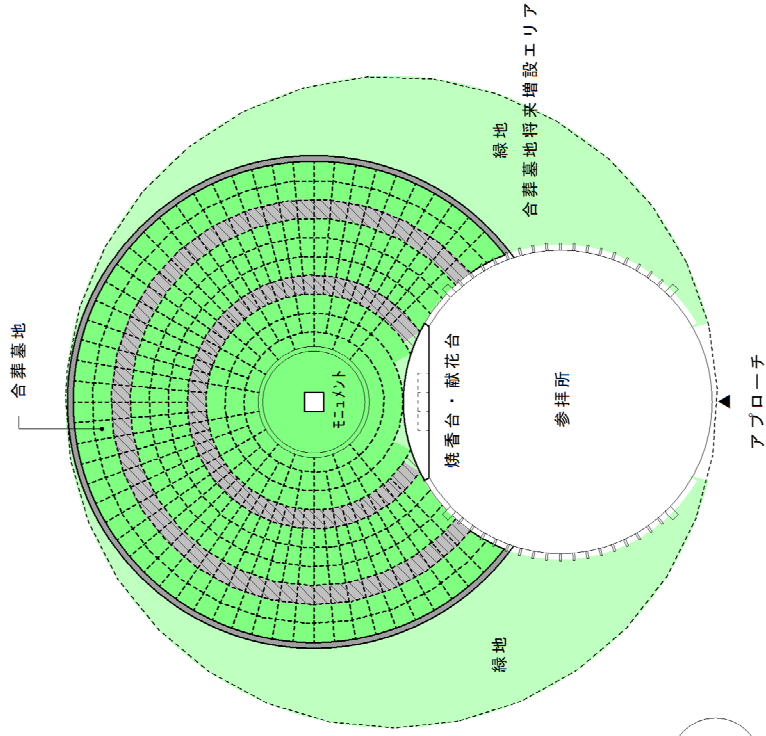
平面図 1:200



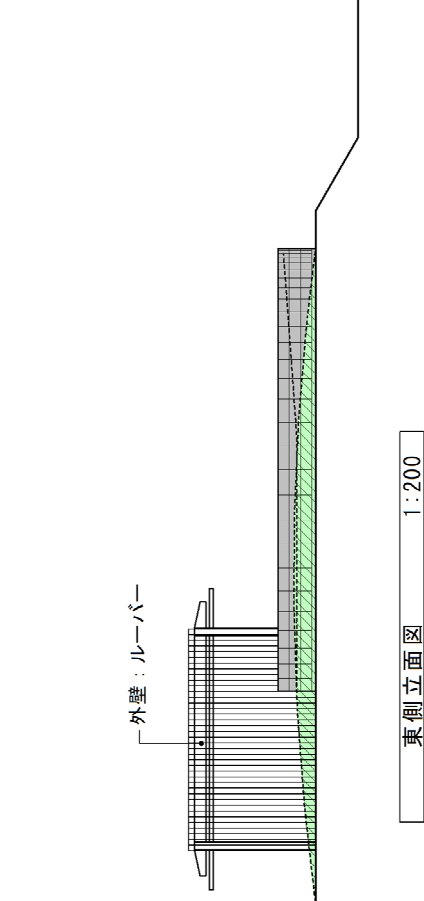
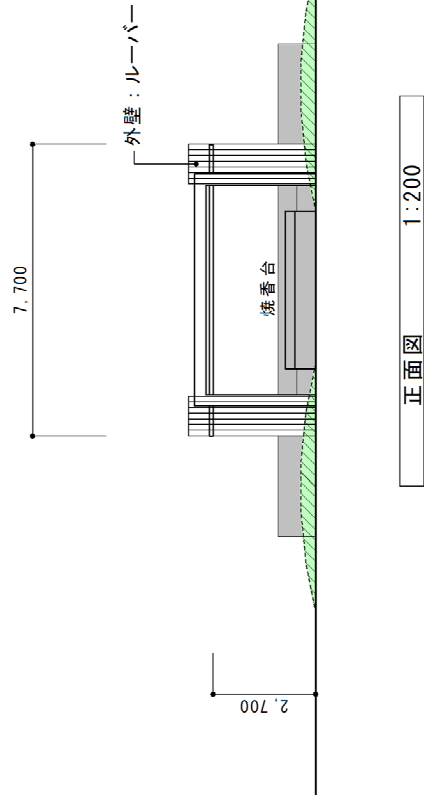
正面図 1:200



東側立面図 1:200

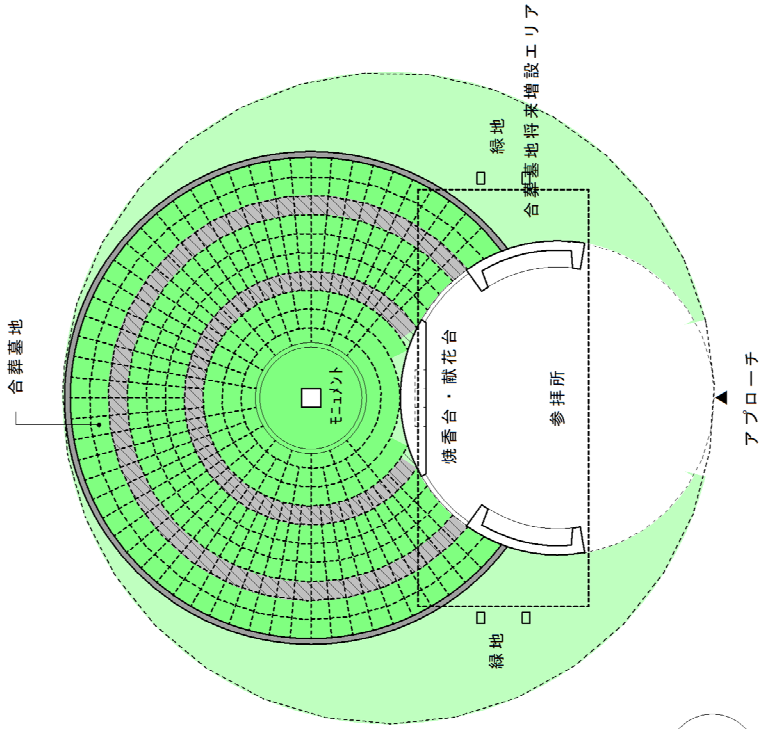


平面図 1:200

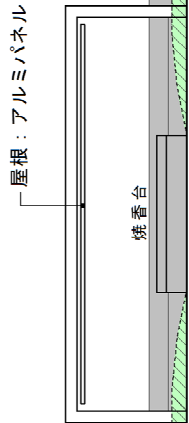


正面図 1:200

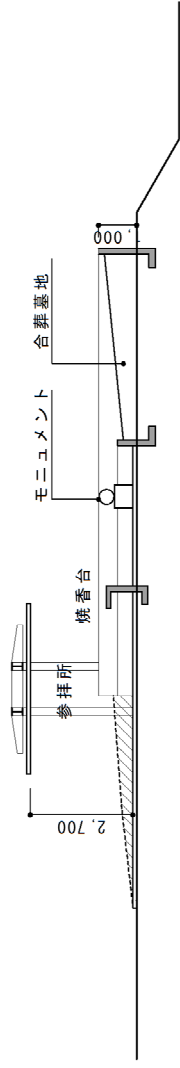
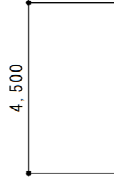
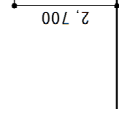
東側立面図 1:200



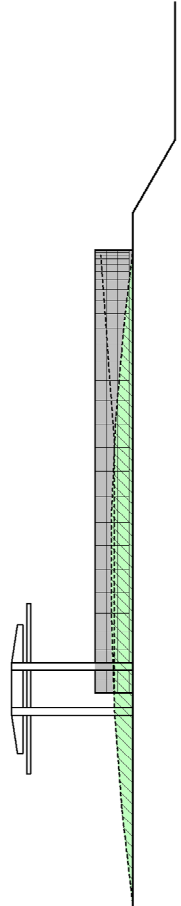
平面図 1:200



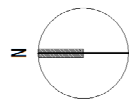
正面図 1:200

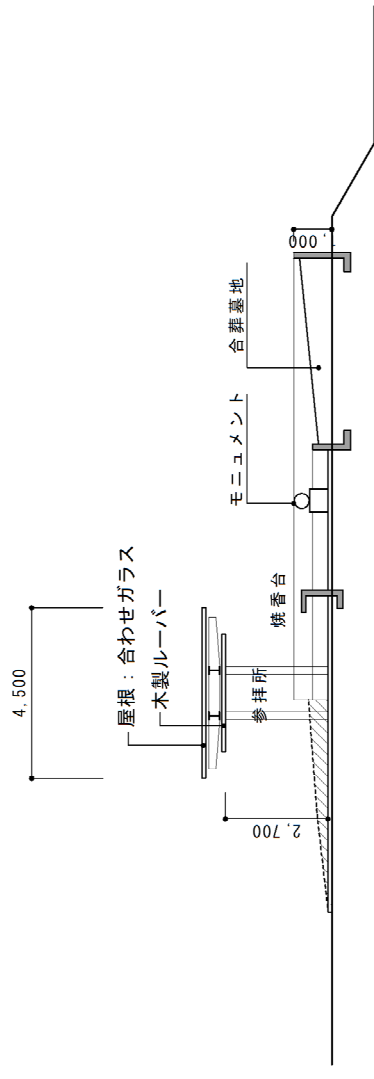
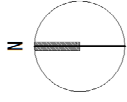
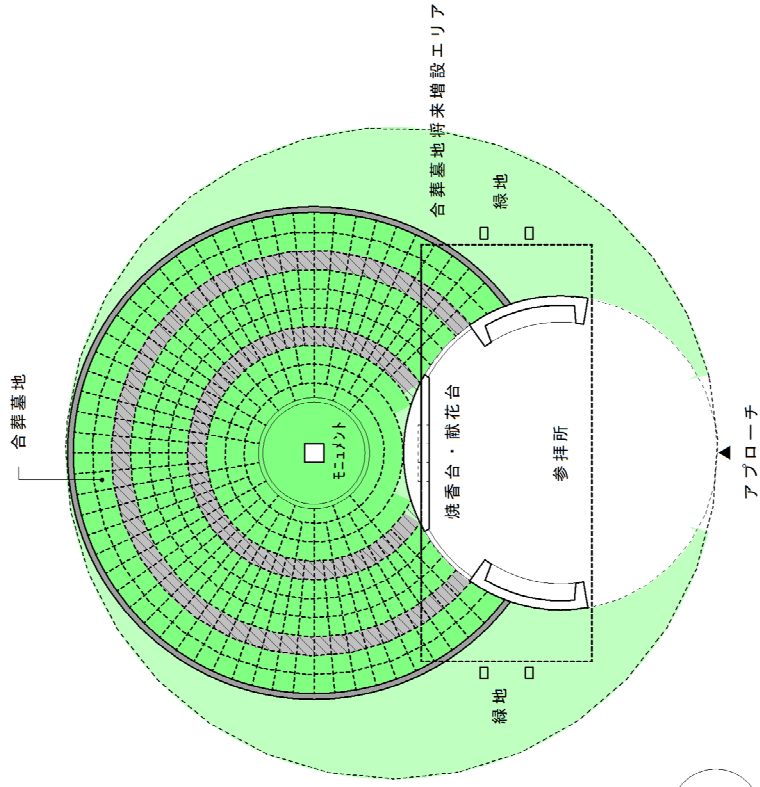


断面図 1:200



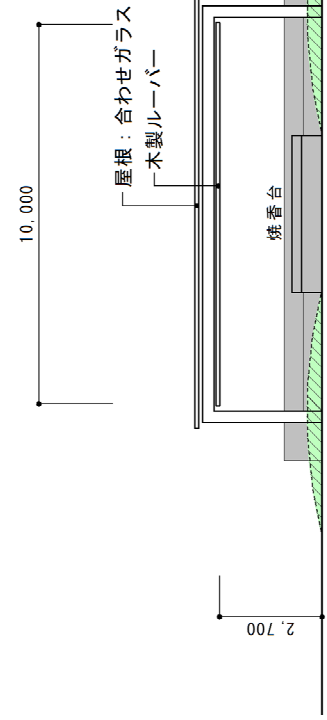
東側立面図 1:200



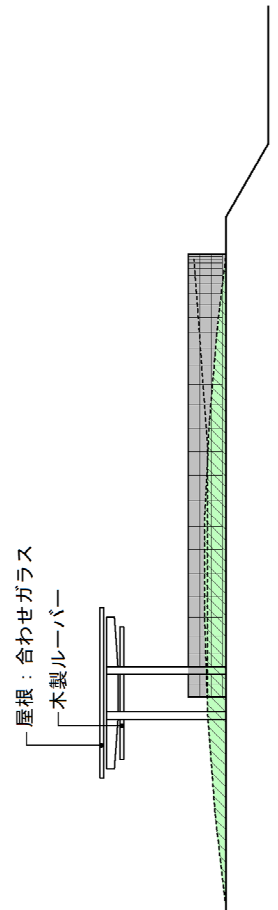


断面図 1:200

平面図 1:200



正面図 1:200

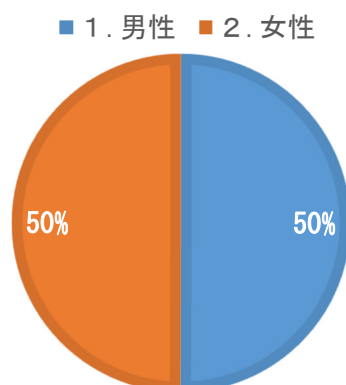


東側立面図 1:200

5. アンケート集計結果

■問1(1) 性別

回答者の性別は、「男性」が50%、「女性」が50%であった。

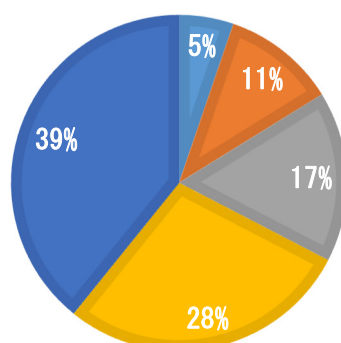


(図1)

■問1(2) 年齢

回答者は「70歳以上」が最も多く39%で、次いで「60歳代」が28%、「50歳代」が17%、「40歳代」が11%、「30歳代」が5%と続いた。

■ 1. 30代 ■ 2. 40代 ■ 3. 50代 ■ 4. 60代 ■ 5. 70代以上

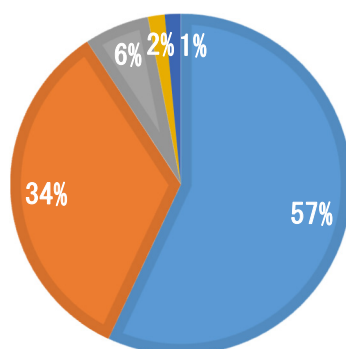


(図2)

■問1(3) 世帯主との続柄

回答者は「世帯主本人」が57%と最も多く、「配偶者」と合わせると90%以上であった。

■ 1. 本人 ■ 2. 配偶者 ■ 3. 長男・長女 ■ 4. 長男・長女以外の子 ■ 5. その他

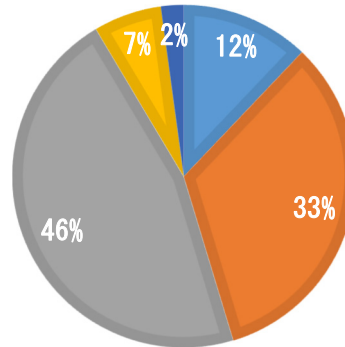


(図3)

■問1(4) 世帯構成

回答者の世帯構成は「二世帯同居」が最も多く、46%であった。次いで、「夫婦のみの世帯」が33%、「単身世帯」が12%、「三世帯同居」が7%と続いた。

- 1. 単身世帯
- 2. 夫婦のみの世帯
- 3. 二世帯同居(親と子など)
- 4. 三世帯同居(親と子と孫など)
- 5. その他

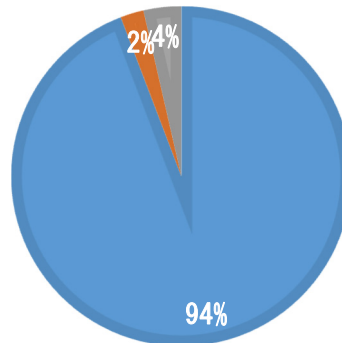


(図4)

■問1(5) 現在の居住地

現在の居住地は「北茨城市内」が94%と大半を占めている。

- 1. 北茨城市内
- 2. 茨城県内(北茨城市を除く)
- 3. 茨城県外

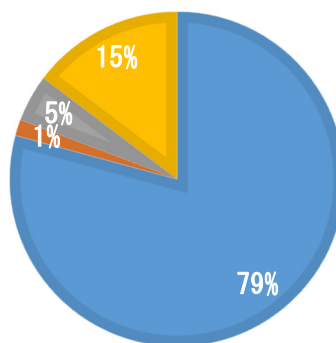


(図5)

■問1(6) 将来も現在の居住地に住み続けたいですか。

回答者の現在居住地への定住志向は「住み続けたい」が79%であった。

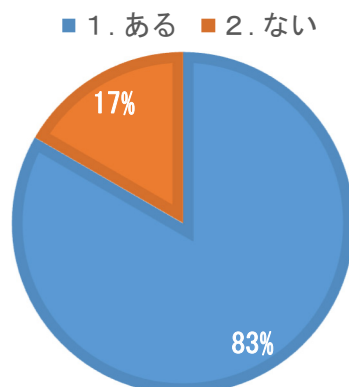
- 1. 住み続けたい
- 2. 転出する予定がある
- 3. 将来的には転出したい
- 4. 特に考えたことはない



(図6)

■問2 あなたが利用できるお墓はありますか。

83%が「利用できるお墓がある」と回答し、17%が「利用できるお墓は無い」と回答した。



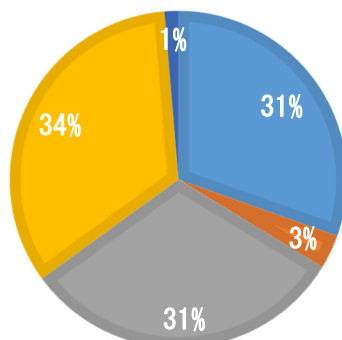
(図7)

問2で「ある」とお答えの方お聞きします。

■問3(1) 利用できるお墓の種類はどれですか。

「泉沢霊園」が31%、「北茨城市外の公営墓地」が3%、「宗教法人墓地」が31%、「その他」が34%となった。

- 1. 北茨城市営泉沢霊園
- 2. 北茨城市外の公営墓地
- 3. 宗教法人墓地(お寺や神社等)
- 4. その他(共同墓地や個人墓地等)
- 5. わからない

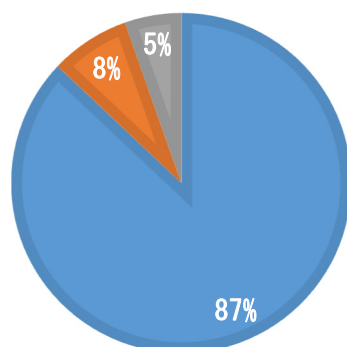


(図8)

■問3(2) 利用できるお墓はどこにありますか。

「北茨城市内」が87%と最も多く、「茨城県内」が8%、「茨城県外」が5%であった。

- 1. 北茨城市内
- 2. 茨城県内(北茨城市を除く)
- 3. 茨城県外

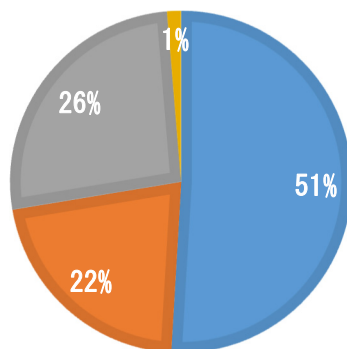


(図9)

■問3(3) 利用できるのはどのようなお墓ですか。

「先祖代々のお墓」が51%と最も多く、「家族が用意したお墓」が22%、「自身で用意したお墓」が26%、「その他」が1%であった。

- 1. 先祖代々のお墓
- 2. 家族が用意したお墓
- 3. 自身で用意したお墓
- 4. その他

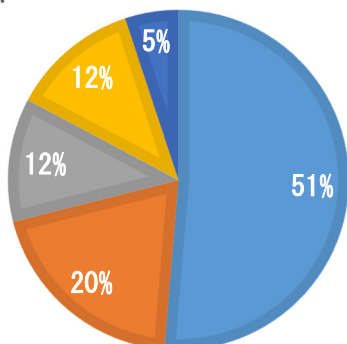


(図10)

■問3(4) お墓の後継ぎ(承継者)はいますか。

「いる」が51%と最も多く、「いるが将来は不安である」が20%、「いるが承継は求めない」が12%、「いない」が12%、「わからない」が5%となった。

- 1. いる
- 2. いるが将来は不安である
- 3. いるが承継は求めない
- 4. いない
- 5. わからない

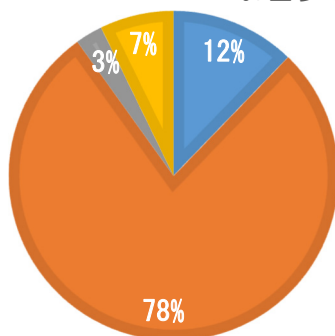


(図11)

■問3(5) 現在のお墓についてどれぐらいの頻度でお参りしていますか。

「月に1回以上」が12%、「年に数回(お彼岸、お盆、命日等)」が78%、「数年に一度」が3%、「お墓参りをしない」が7%であった。

- 1. 月に一回以上
- 2. 年に数回(お彼岸、お盆、命日等)
- 3. 数年に一度
- 4. お墓参りはしない



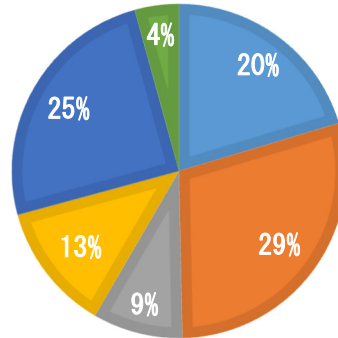
(図12)

■問3(6) 現在のお墓の維持管理などで負担になることや心配なことはありますか。

(当てはまる番号をすべて選択)

利用しているお墓の負担や心配については、「お墓の維持管理」が20%、「お墓の清掃等の管理」が29%、「お墓参り」が9%、「お墓を継ぐ人がいない」が13%であった。また、「負担や心配はない」と回答したのは全体の約4分の1であった。

- 1. お墓の維持管理費
- 2. お墓の清掃等の管理
- 3. お墓参り
- 4. お墓を継ぐ人がいない
- 5. 負担や心配はない
- 6. その他



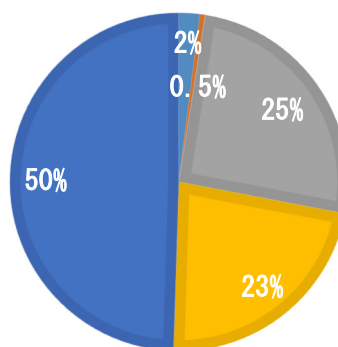
(図13)

問2で「ない」とお答えの方にお聞きします。

■問4(1) あなた又はあなたのご親族では、今後新規にお墓を取得する予定がありますか。

利用出来るお墓がないと回答した人のうち、お墓の取得を「希望する人」は全体の約25%、「希望しない人」は23%、「わからない」と回答した人は50%と最も多い。

- 1. 5年以内に取得する予定がある
- 2. 5年～10年以内に取得する予定である
- 3. 時期は決まっていないが取得を検討している
- 4. 新たに取得する予定はない
- 5. わからない／未定である

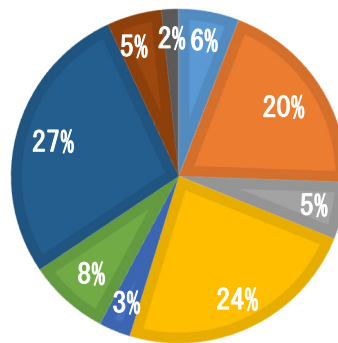


(図14)

■問4(2) あなたがお墓を建てる又は購入する場合、次のどのような点に気を配られますか。

「墓地周辺の環境(眺望や自然環境など)」が6%、「自宅からの距離が近い」が20%、「交通の便の良さ」が5%、「購入費用」が24%、「駐車場やトイレの有無」が3%、「墓地内の清掃や美観等の維持管理」が8%、「後継ぎがいなくても利用できる墓(永代管理墓)」が27%と最も多くを占め、「わからない」、「その他」が7%となった。

- 1. 墓地周辺の環境(眺望や自然環境など)
- 2. 自宅からの距離が近い
- 3. 交通の便の良さ
- 4. 購入費用
- 5. 駐車場やトイレの有無
- 6. 墓地内の清掃や美観等の維持管理
- 7. 後継ぎがいなくても利用できる墓(永代管理墓)
- 8. わからない
- 9. その他

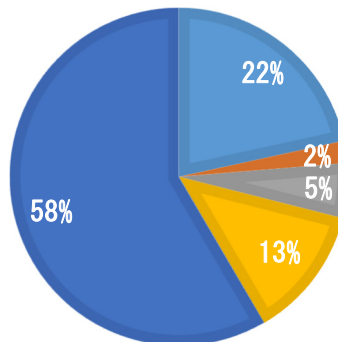


(図15)

■問4(3) あなたがお墓を建てる又は購入する場合、次のうちどのようなお墓の種類を希望されますか。

「北茨城市泉沢霊園」が22%、「北茨城市外の公営墓地」が2%、「宗教法人墓地(お寺や神社等)」が5%、「その他(共同墓地や個人墓地等)」が13%、「わからない」が58%となった。

- 1. 北茨城市営泉沢霊園
- 2. 北茨城市外の公営墓地
- 3. 宗教法人墓地(お寺や神社等)
- 4. その他(共同墓地や個人墓地等)
- 5. わからない

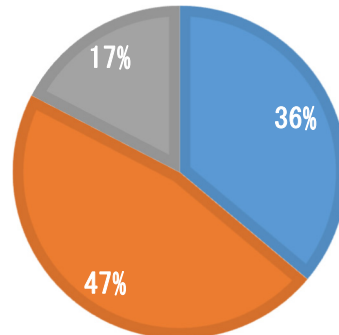


(図16)

■問5(1) 合葬式墓地を知っていますか。

「よく知っている」が36%、「よくわからないが聞いたことがある」が47%となり5分の4以上の方が認知しているという結果となった。

- 1. よく知っている ■ 2. よくわからないが聞いたことがある ■ 3. 知らない

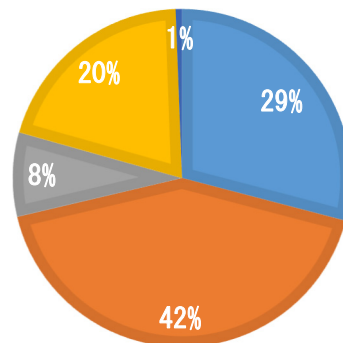


(図17)

■問5(2) 合葬式墓地はこれからのお墓の在り方に適した施設だと思いますか。

「適している」が29%、「どちらかといえば適している」が42%となり、合計すると7割以上の方が適していると回答した。その他、「従来のお墓で十分である」が8%、「わからない」が20%であった。

- 1. 適している ■ 2. どちらかといえば適している
■ 3. 従来のお墓で十分である ■ 4. わからない
■ 5. その他

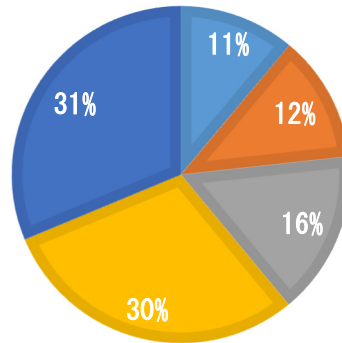


(図18)

■問6 北茨城市が合葬式墓地を整備した場合、利用したいと思いますか。

「ぜひ利用したい」が11%、「どちらかといえば利用したい」が12%、「整備すれば検討する」が16%と、約3分の1が前向きな意見であった。その他、「どちらともいえない」が30%、「利用しない」が31%であった。

- 1. ぜひ利用したい
- 2. どちらかといえば利用したい
- 3. 整備すれば検討する
- 4. どちらともいえない
- 5. 利用しない

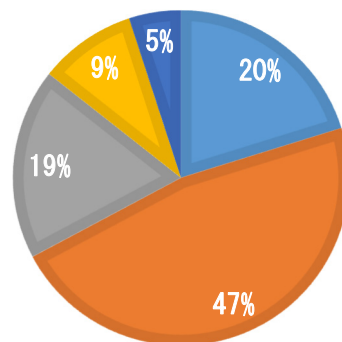


(図19)

■問7(1) 合葬式墓地を利用したい理由はなぜですか。

「お墓の後継ぎがないため」が20%、「子孫にお墓のことで負担をかけたくないため」が47%、「従来型のお墓に比べて費用が掛からないため」が19%、「自分の将来を考えて生前にお墓を用意したいため」が9%、「既にある遺骨を預けたい、または改葬を行いたいため」が5%であった。

- 1. お墓の後継ぎがないため
- 2. 子孫にお墓のことで負担をかけたくないため
- 3. 従来型のお墓に比べて費用が掛からないため
- 4. 自分の将来を考えて生前にお墓を用意したいため
- 5. 既にある遺骨を預けたい、または改葬を行いたいため

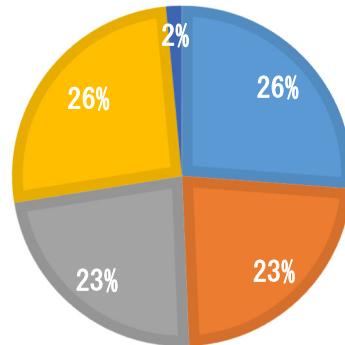


(図20)

■問7(2) 合葬式墓地についてどのような形態を希望しますか。

「納骨堂で10年から20年間、遺骨を個別に保管し、その後、合葬する形態」が26%、「樹木葬形式(納骨と同時に合葬し、墓標として樹木等を植樹する)の形態」が23%、「どのような形態でもよい」が23%、「わからない」が26%、「その他」が2%であった。

- 1. 納骨堂で10年から20年間、遺骨を個別に保管し、その後、合葬する形態
- 2. 樹木葬形式(納骨と同時に合葬し、墓標として樹木等を植樹する)の形態
- 3. どのような形態でもよい
- 4. わからない
- 5. その他

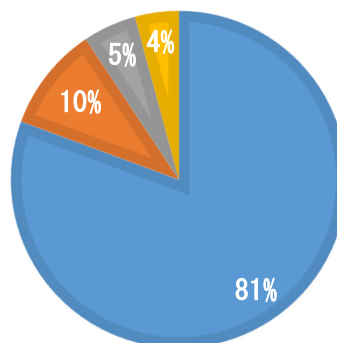


(図21)

■問8 合葬式墓地を利用しない理由はなぜですか。

「利用できるお墓が既にあるため」が81%と大半を占めており、「遺骨をまとめて納める合葬に抵抗があるため」が10%、「従来のお墓の風習にそぐわないため」が5%、「その他」が4%となった。

- 1. 利用できるお墓が既にあるため
- 2. 遺骨をまとめて納める合葬に抵抗があるため
- 3. 従来のお墓の風習にそぐわないため
- 4. その他

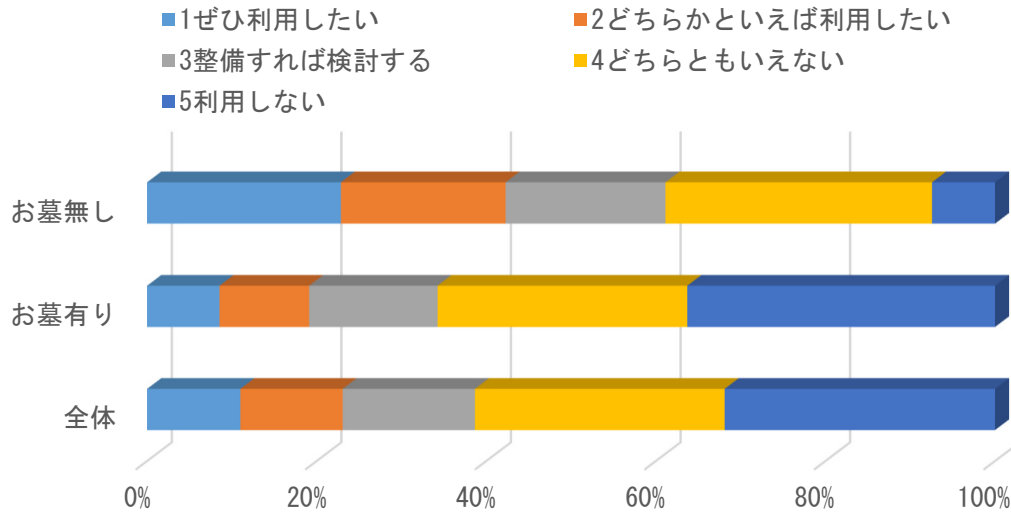


(図22)

■利用できるお墓の有無×合葬式墓地の利用希望（クロス集計）

利用できるお墓が無い人では、合葬式墓地を「ぜひ利用したい」、「どちらかといえば利用したい」又は「整備すれば検討する」と回答した人が約61%であった。

このことから、今後、お墓の購入を検討する人においては、合葬式墓地が選択肢のひとつになり得ると考えられる。



(図23)